

ビジョパークフロア相談 報告書

1. 相談状況

神戸アイセンターでは、「神戸アイセンター×ビジョパーク連携カード」という連携カードによって神戸アイセンター病院の医師や視能訓練士、看護師などがロービジョンに関する情報提供が必要と感じたときに連携カードを発行する取り組みを行っています。

この連携カードによって患者さんがビジョパークで相談する機会が増えるだけでなく、連携カードを持たない患者さんがご本人の意思で直接ビジョパークへ相談に来られるケースが増えたことが今年度の特徴と言えます。

具体的に、今年度は4月以降の半年で相談件数が420件、月平均70件（前年比40%増）となっており、相談件数が増加傾向であることがわかります。これは表1にあるように、神戸アイセンター病院からの紹介患者だけでなく、近隣の関連病院や開業医からの紹介患者様が増えていること、さらに前述のように神戸アイセンター病院を受診した患者が、連携カードにより紹介されなくても、通院の行き帰りや受診の待ち時間を活用して、自ら相談に訪れている結果と言えます。

このように、これまで福祉施設や支援施設を紹介しても支援やサービスにつながりにくいと言われてきたロービジョンケアが変化し、患者様だけでなくこれまでロービジョンケアを患者様に情報を提供しにくくもできなかった医師へのサポートにもつながっていると考えます。

また、困りごとなどの相談は一度で終わるものでなく、病状の進行や患者の精神状態や生活環境の変化にも対応する必要があるため、複数回もしくは継続的な支援が必要となります。そのため、常に相談の窓口を開いているビジョパークの存在が患者や患者を支えるご家族だけでなく医師や看護師などの医療従事者への支援にもつながります。

2. 相談期間

2019年4月4日～2020年3月31日

3. 相談内容

患者及びそのご家族、視覚障害の有無に関係なく情報を必要とする方に聞き取りを行い、適切な福祉施設の紹介、支援・サービスの情報提供など個別対応を行いました。

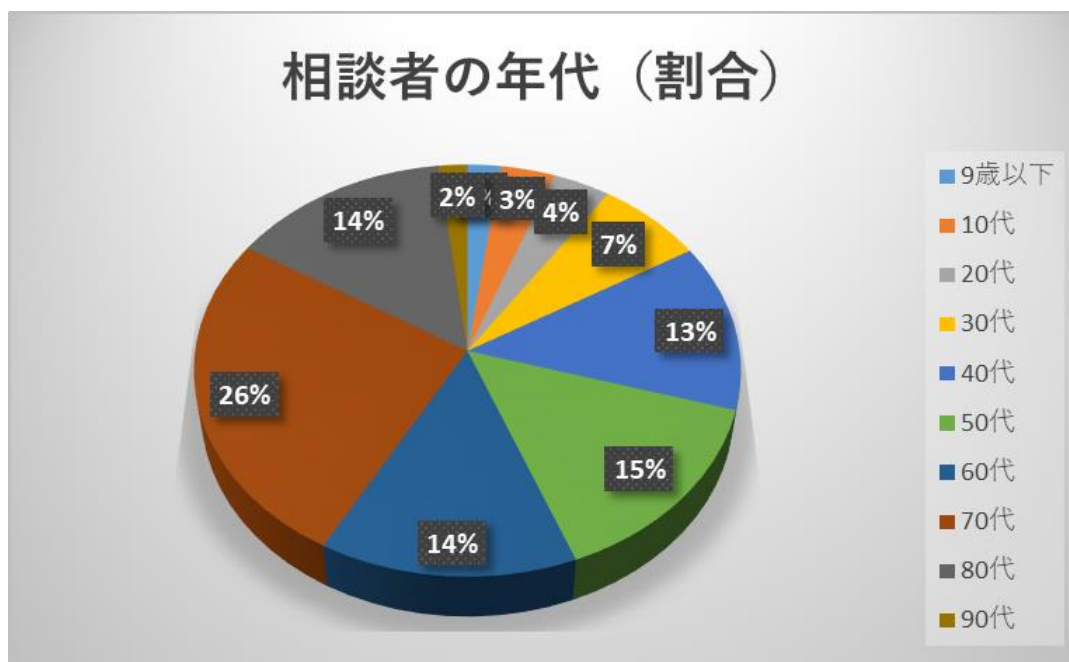
相談件数・相談内容は下記のとおりです。

(表 1) 相談件数

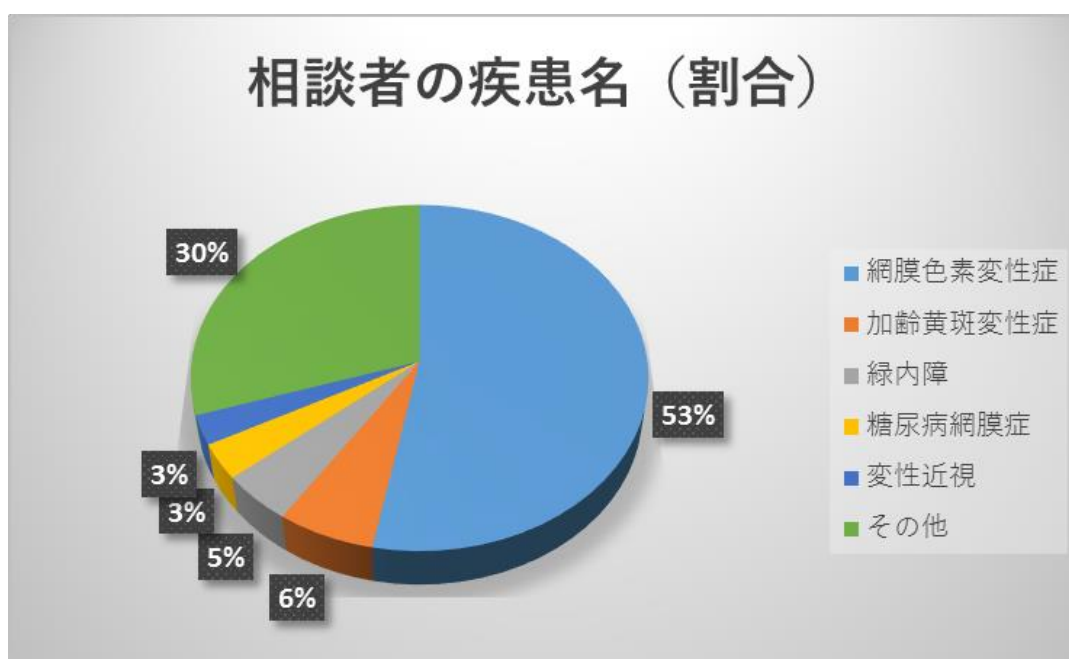
(単位：件)

2019年									2020年			
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
66	71	78	72	59	74	65	63	62	70	58	50	788

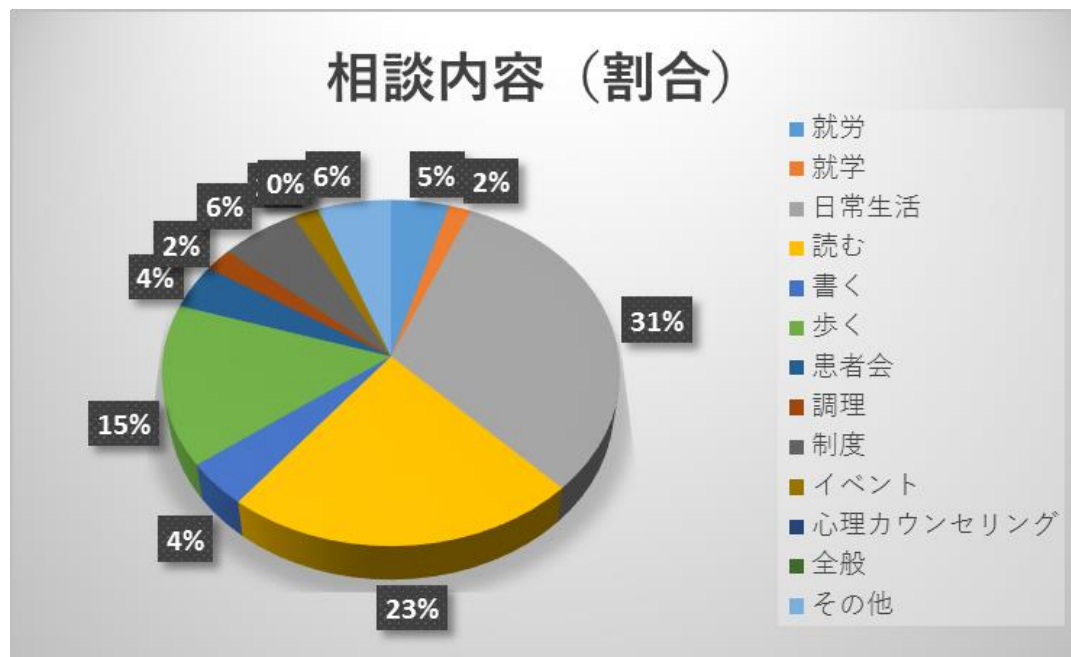
(グラフ 1) 相談者の年代 (割合)



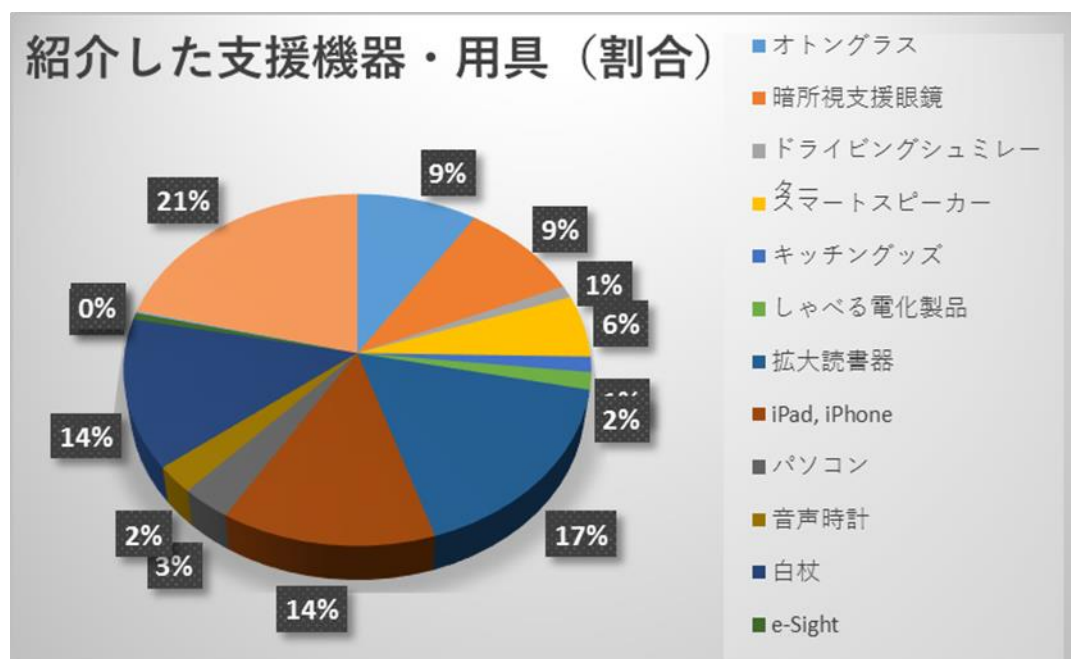
(グラフ 2) 相談者の疾患名 (割合)



(グラフ3) 相談内容 (割合)



(グラフ4) 紹介した支援機器・用具 (割合)

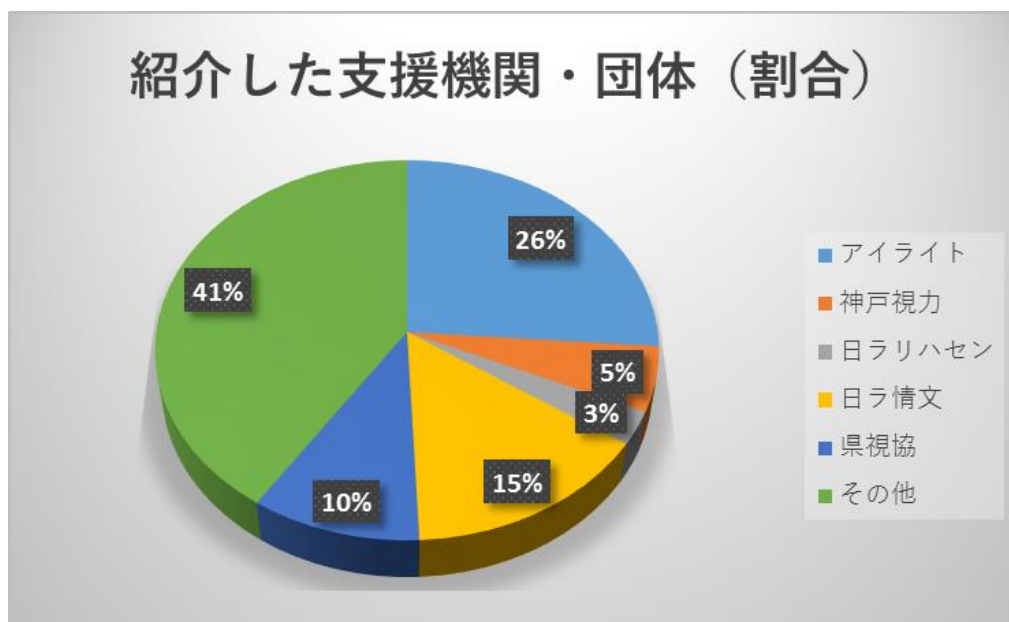


グラフ1～4のように、対応する相談者の年齢、疾患及び相談内容は多岐にわたるため、ご紹介する支援機器や用具も多岐に渡ります。

単に情報を提供するだけでなく、相談者の家族構成、精神状態などを確認する必要があることから、画一的な対応は困難であり、お一人お一人の生活環境や病状に合わせた情報提供が必要となります。

また、相談者が必要となる支援やサービスをお住まいの地域で受けていただけるよう、適切な支援機関や団体をご紹介することが重要となります。

(グラフ5) 紹介した支援機関・団体 (割合)



そこで、我々は支福祉施設・支援団体等と連携し、常に患者様に寄り添う体制を整え情報提供を行うことで、患者様の生活の質、見え方の質の向上を目指しました。

4. 協力団体・機関との連携

2019年度はフロア相談を充実させるために連携する団体・機関を2018年度の12団体から2団体1に増やし、フロア相談の充実を計りました。

ビジョンパークでのフロア相談業務は、その21の協力団体・機関と連携して実施し2019年4月から2020年3月の1年間で、計332回の相談コーナーを開設しました。

福祉団体、教育関係、当事者団体と他職種の専門職員が日替わりでフロアで相談コーナーを担当しており、同じ日に複数の団体が相談コーナーを開設することで、相談者が一度にさまざまな相談を受けることが可能となりました。

また、相談者だけでなく、施設間の情報交換が可能となることことから情報の共有だけでなく多機関連携が深まり、ビジョンパークが「他職種連携」の場ともなりました。

また、ビジョンパークの通路に面したカウンターに、ルーペや音声時計、財布や爪切りなどの便利グッズを展示することで、アイセンター病院受診の患者やそのご家族が気軽に便利グッズの存在や相談機関の情報を知っていただく機会になりました。

(表2) 支援協力機関・団体と相談コーナー開催数

(単位：回)

団体名	実施回数
網膜色素変性症協会（生活とピアサポート）	37
神戸アイライト協会（生活・就労相談）	44
日本ライトハウス情報文化センター（生活相談・サピエ体験）	21
日本ライトハウスリハビリテーションセンター（生活・就労相談）	9
神戸視力障害センター（生活・就労相談）	21
Gラウンジ（iPhone/iPad相談）	21
神戸市立盲学校（教育・就労相談）	20
兵庫県立視覚特別支援学校（教育・就労相談）	20
きららの会（若年層の生活・就労相談）	11
堺市立健康福祉プラザ（生活相談）	7
兵庫県立視覚障害者福祉協会（生活・就労相談）※	45
きんきビジョンサポート（生活・就労相談）	12
アイコラボ（AIスピーカー相談）	7
神戸市立点字図書館（生活相談・サピエ体験）	7
障害者就労移行支援事業所サンヴィレッジ（就労相談）	4
兵庫盲ろう者友の会（生活相談）	10
システムギアビジョン（拡大読書器体験）	24
FQJapan（e-Sight体験）※日によって予定の名前が異なるので注意	10
兵庫県立点字図書館	1
大阪府立大阪北視覚支援学校	1
合 計	332

5. まとめ

今年度は相談件数が788件、月平均66件（前年比53%増）となっており、相談件数が増加傾向であることがわかります。増加理由として神戸アイセンター病院からの紹介患者だけでなく、近隣の関連病院や開業医からの紹介患者様が増えていること、さらに患者が紹介されなくても通院の行き帰りや受診の待ち時間を活用して、自ら相談に訪れている結果であると考えられることは前述の通りです。

これまで福祉施設や支援施設を紹介しても支援やサービスにつながりにくいと言われてきたロービジョンケアが変化し、患者だけでなくこれまでロービジョンケアを患者に情報を提供したくてもできなかった医師など医療従事者へのサポートにもつながっていると考えます。また、相談は一度で終わるものでなく、病状の進行や患者様の精神状態や生活環境の変化にも対応する必要があるため、複数回もしくは継続的に必要とな

ります。

そのため、今後も相談件数の増加は必至であり、その相談で患者や情報を必要とする見えない・見えにくい方に満足していただけるよう対応するために、我々は相談業務に協力してくれる福祉施設や支援団体をサポートし、さらに連携・協働していきます。

なお、今後の課題として相談利用者の満足度調査、相談後の追跡調査などの実施も視野に入れ、引き続き相談者の心身の健康増進を図りたいと考えます。